大京町内会からは

第九号 安否確認訓練特集

発行:2012年7月20日 大東町内会 会長 森井義明

○被災なら救出又は救援要請を表示

安否確認訓練特集の

発刊にあたって

大東町内会長 森井義明

梅雨も明け暑い夏の季節となりました。 皆さまお元気でいらっしゃいますか。

衝撃的なテレビの映像、津波の怖さを目の あたりにしてから1年4ヶ月あまり、各地で 地震発生源の見直しが進められ、神奈川県内 でも三浦断層、神縄断層などの見直しが進め られております。

東京湾北部直下型地震も近い将来に起り得るとの情報もあり、藤沢市の津波予想は5~6mから10.7mに見直されるなど、災害時の安全確保に対する皆さまの関心も高まって来ているように感じられます。

5月26日町内会として初めての安否確認訓練、 7月7日には藤沢市主催の都市部では例のない津波 訓練が実施され町内の多くの方々にご参加いただ きました。

災害が発生したときは、先ず自分自身を守ること が必要です。どのように守るか、それは日頃のから の心の準備、避難用品の準備、そして繰り返し避難 訓練に参加して避難方法を体得することではないで

(タオル掛け、そして声掛けも)

しょうか。 災害時には 「自分・安・全」 「家族・の安・全」 「近所のも心に をいつも心に 留めておきたい ものです。

I. 5月26日に行った訓練の内容

1. 安否確認訓練の流れ

(1) 一般の全組(52組、645軒): 無事表示タオル掲示訓練のみ 組長は 地震終息 無事表示タオルを掲示 組内のタオル掲示の有無の数を 対策本部駐留の班長に報告 (2) 重点10組(166軒): ①タオル、②メモ、③声掛け訓練 ① 無事表示タオル掲示、又は 組長は 被災者救援要請メモを掲示 組内の①②③の安否確認情報を 対策本部駐留の班長に報告 ② 安否確認メモを組長に提出 地震終息 不在宅はその旨を組長に報告 ③ タオル掲示のない家を対象に 在宅は 隣近所に声掛けで安全確認 ○無事ならタオル掲示を促す

-1-

2. 対策本部立上げ訓練の流れ ○情報研は 町内の安否情報を集約 役員は会館横の駐車場に集合し ○救出・救護班は 地震終息 建物の安全確認後 対策本部立上げ 救援要請に対応 ※ 救護要請をされた5軒には本部から救出救護班

が複数名で出向き対応した。

○消火・避難・防犯・給食班は 各々の出動を想定し、対処策等を検討

Ⅱ.まとめ

訓練の目的

☆「被災者の早期発見・早期対処」です。

ご自宅の無事表示タオル掲示の次は、タオルの出ていない 家庭に「声を掛ける」ことで、ご近所の被災者の早期発見が 可能となります。



(膨大な安否情報を集計する情報班)

参加者の意見

- ●「日頃つき合いのない家には声をかけづらかった」(多数あり) 「年寄りの面倒みで手一杯、近所に声をかける余裕がない」との意見もあった。
- ●「今回の訓練で普段表に出ない人が出てきて、顔見知りになれてよかった」との評価もあった。
- 「災害本番でパニックにならず落ち着いて出来るか自信がない」 「組長·班長の負担が大きすぎて、本番で役割が果たせるか心配」 との意見もあった。

本部の反省と今後の課題

- ●情報班は次々と集まって来る組長報告を迅速・的確に集約しきれなかった。
- ●救出・救護班から ①応急処置の知識がないと対応が心配。 ②救護要員と救急用品が足りない。
- ●実災害時は防災各班のメンバーがそろわないことが懸念されるが、その対処策をどうするか?
- ●防災各班は日頃何を訓練しておけばよいか?
- ●一人でも多くの方が、一つでも多くの事が出来るように層を厚くすることが大切。
 - ○その一環として、また上記①から、「救護時の応急処置に関する勉強会」を9月に開催の予定です。
 - ○併せてイザの時、協力していただける救護ボランティアを募ります。 奮って応募して下さい。

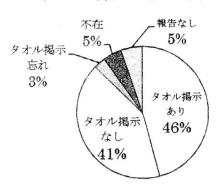
今回の教訓

- ●「誰かがやってくれるとの受け身ではなく、全員が自ら積極的に参加する」
- ●「忙しくて声掛けなどが出来ない人や、役割・負担が大きい組長を近所で協力してカバーする」
- ●「常日頃 近所の方と顔なじみになる努力をする」 など、"近助"の意識を高めることが大切。 結局それが自分の身を守る事につながります。

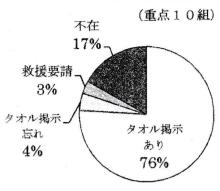
自発的な近助と全員組長との意識が大東町内会の防災力を高めます。

Ⅲ.訓練結果

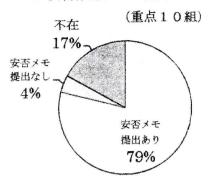
1 タオルの掲示 (一般の全組)



2 タオルの掲示と救援要請



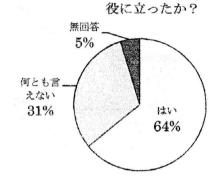
3 安否確認メモの提出



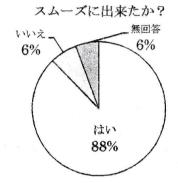
Ⅳ. アンケート結果

※回答率75%:対象140軒中 回答数106軒 ※設問5、10は記述式のためで省略しました。

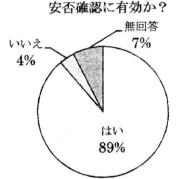
1. 訓練全体として



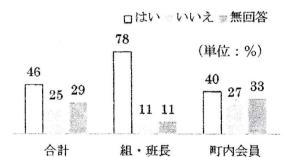
2. タオル掛けは



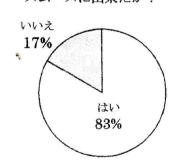
3. タオル掲示は



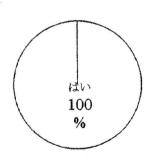
4. 声掛けを ためらわずに出来たか?



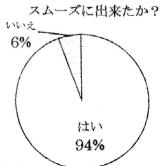
6. 安否確認の把握は スムーズに出来たか?



7. 被災者の早期発見に 有効でしたか?



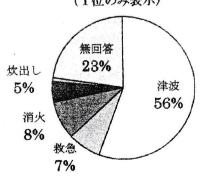
8. 本部への報告は





(竿の先にタオル掛けも名案)

9. 今後希望する訓練は? (1位のみ表示)



V. 今後の計画

- ●あの大震災を風化させないためにも、来年 3.11 近くで第二回安否確認訓練を実施します。
- ●その際、防災でびき通り「**隣り近所への声掛け確認**」を全組一斉に実施します。
- ●それまでの間に、今回の課題・教訓を一歩一歩クリアーしておきましょう。

【スケジュール】

実施日	訓練・講習	摘要
9月3日 (月)	鵠中生一斉下校訓練と合同訓練	大東在住の鵠中生との交流、協力依頼 於:町内会館
9月17日 (月祝)	鵠沼地区総合防災訓練	鵠沼自治連 於:鵠洋小学校
9月29日(土)	応急処置勉強会	大東町内会防災会 救護班の指導 於:町内会館
11月	大東町内会自主防災訓練	大東町内会防災会 消防署指導 於:町内会館
2月	救急救命講習会	大東町内会防災会 消防署指導 於:町内会館
3月	第2回 安否確認訓練	大東町内会防災会 全組対象

VI. よもやま話

(6月16日の反省お茶会などで出た話題)

- ◆反省会に平岩多恵子鵠沼市民センター長が前日 の鵠中宿泊体験の流れで参加、大いに盛上る。
 - ・市民センターを知らない人がいた。 <鵠沼海岸駅近く、公民館と同じ場所です>

◆ 三つの勘違い

① 安否確認の対象は、その時の在宅者のみ。 先ず在宅家族の被災の有無を確認!

<外出者については無事を信じ、安否確認は 次のステップ>

- ② 近所への声掛けで、家具に挟まれた人や怪我人 を見つけたら先ず近助 (近所の人で助け合う)。
 - <人手を要したり、手に負えない時には 本部へ 救援要請に走りましょう!>
- ③ 安否確認メモへの家族の名前などの記入は災害 時ではなく、事前に記入しておく。

ずに組長へ すぐに提出が可能!>



(訓練終了後の反省会)

- ◆ 組長の苦労談 抜粋
 - ・前日心配で確認の回覧を回したら、当日外出 でもタオル掛けは必要か? と相談される程 関心が高かった。 くもちろん不要です>
 - ・組長が道路に立つから、そこに安否確認メモ を持って来て と宣言したら、久しぶりに銀座 並みの人出だった。
 - ・ベランダにタオルを掛けると洗濯ものと区別 が付かず困った。
- ◆ JR 社宅はタオルを掛ける場所が統一され、 一目で不掲示の家を判別できた。
- <災害時は、○×の記入だけでパニックになら ◆ 宿泊訓練で見た簡易トイレ、猫砂、ヘッドライ トなどは大変参考になった。斡旋して欲しい。

一編集後記 -

今回の安否確認訓練の特集号は、役員有志のご尽力でまとめられ発行することが出来ました。 今後、訓練を重ねながら町内会皆様の防災への備えや、意識が高まって行くことを切望します。

(広報部)